A decorative graphic on the left side of the slide, composed of several overlapping squares in various shades of blue and purple, creating a stepped, staircase-like effect.

2010年3月期 第3四半期 決算概要

2010年2月

稲畑産業株式会社

2010年3月期 第3四半期 決算総括

<ポイント>

- ❑ 売上高は、主力の情報電子や合成樹脂事業において一部に回復基調がみられましたが、円高の影響もあり、対前年同期比21.9%減の2,935億円
 ⇒円高による影響額228億円の減
- ❑ 営業利益は、利益率の改善、経費削減等があったものの、売上高の減少に伴い、対前年同期比27.6%減の30億円
- ❑ 経常利益は、営業利益の減少に加え、持分法による投資損失等の増加により、対前年同期比42.8%減の30億円
- ❑ 純利益は、前年同期に多額の投資有価証券売却益があったことに加え、当期に投資有価証券評価損等が増加したことにより、対前年同期比57.1%減の11億円

連結	2008年度 第3四半期	2009年度 第3四半期	前年同期比
売上高	3,756億円	2,935億円	△21.9%
営業利益	42億円	30億円	△27.6%
経常利益	52億円	30億円	△42.8%
四半期純利益	26億円	11億円	△57.1%
1株当り 四半期純利益	40円96銭	17円59銭	

2010年3月期 第3四半期 B/S

①景気底入れに伴う売上債権及び仕入債務等の増 ②運転資金減少等に伴う借入金の減

単位:百万円

(資産の部)	09/03	09/12	増減	(負債／純資産の部)	09/03	09/12	増減
現金及び預金	11,247	6,037	△5,209	支払手形及び買掛金	66,811	87,470	20,658
受取手形及び売掛金	104,197	126,051	21,854	短期借入金	49,499	38,744	△10,755
棚卸資産	27,477	23,285	△4,191	その他流動負債	9,088	6,881	△2,207
その他流動資産	10,746	7,169	△3,576	長期借入金	14,774	17,176	2,401
有形固定資産	11,765	11,199	△566	その他固定負債	11,504	12,512	1,007
無形固定資産	4,724	6,383	1,658	株主資本	55,971	56,223	252
投資有価証券	38,729	44,061	5,332	評価・換算差額等	6,741	11,514	4,772
その他固定資産	6,390	6,941	550	その他純資産	886	609	△277
資産合計	215,279	231,130	15,851	負債純資産合計	215,279	231,130	15,851

2010年3月期 第3四半期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前年同期比 △13.4% 193億円減

- ✓ 総じて回復基調となり、対前年同四半期会計期間比(10-12月)では増加
- ✓ 液晶関連は、偏光板、偏光板原料等を中心に大きく回復
- ✓ インクジェット関連は、拡大傾向にある産業用分野への取組み等により伸長
- ✓ 半導体関連は景気刺激策などにより回復傾向が強まる

化学 品 ⇒ 対前年同期比 △24.6% 137億円減

- ✓ 機能化学品関連では、エンブラ、エポキシ樹脂向けなどの樹脂原料が、前年同期水準まで回復したものの総じて低調
- ✓ ライフサイエンス関連では、新型インフルエンザ関連商品の寄与等もあり好調

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 △27.4% 376億円減

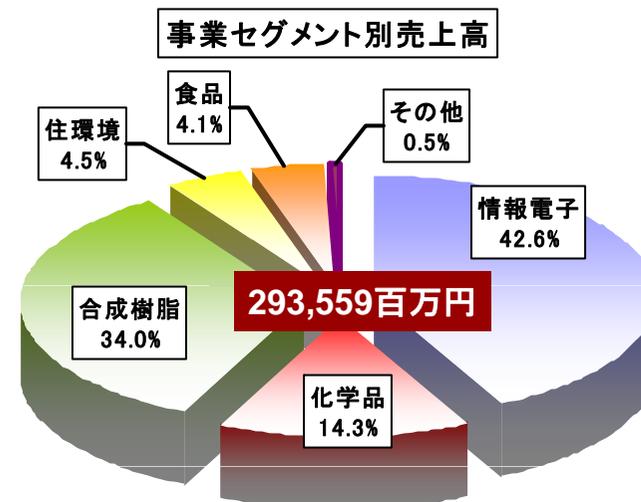
- ✓ 海外での需要増に支えられ、概ね回復基調
- ✓ 汎用樹脂は取扱数量は前年同期水準まで回復するも、価格下落により減少
- ✓ 高機能樹脂は主に中国、東南アジア向けが順調に推移し増加
- ✓ フィルム・シート関連は需要期で堅調に推移したものの、価格下落により減少

住 環 境 ⇒ 対前年同期比 △24.1% 41億円減

- ✓ 建築・不動産不況の長期化に加え、新築住宅着工戸数の大幅減少や竣工物件の値下げなどにより、引き続き厳しい状況
- ✓ 海外からの安定的な仕入に注力

食 品 ⇒ 対前年同期比 △35.3% 66億円減

- ✓ 水産物は、回転ずし向け販売は比較的堅調である一方、その他の外食産業向けが景気低迷の影響により苦戦
- ✓ 農産物は果汁関連が低迷したものの、国産冷凍野菜への取組みに注力
- ✓ 畜産事業からは撤退(46億円の売上減)



2010年3月期 第3四半期		
	売上高(百万円)	前年同期比(%)
情 報 電 子	124,973	△13.4
化 学 品	42,020	△24.6
合 成 樹 脂	99,890	△27.4
住 環 境	13,168	△24.1
食 品	12,164	△35.3
そ の 他	1,341	△29.4
合 計	293,559	△21.9

2010年3月期 第3四半期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前年同期比 11.1% 1億円増

- ✓ 主力の液晶関連を中心として総じて回復基調となったことや、コスト削減効果も寄与したことから増加

化学 品 ⇒ 対前年同期比 Δ4.3% 14百万円減

- ✓ 前期において英国の硝化綿製造子会社における損失が大きかったことに加え、当期にライフサイエンス関連が順調であったことから、対前年同四半期会計期間比(10-12月)では増加

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 Δ53.7% 11億円減

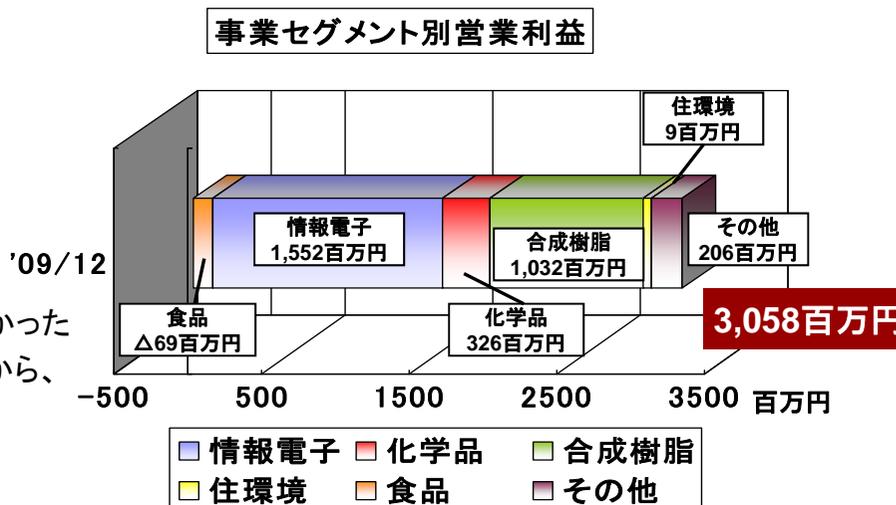
- ✓ 海外での需要増に支えられ、概ね回復基調にはあるものの、価格下落等の影響により減少

住 環 境 ⇒ 対前年同期比 1億円増

- ✓ 建築・不動産不況の影響により、全般に低調であったものの、販売費が減少したことから増加

食 品 ⇒ 対前年同期比 2億円減

- ✓ 売上の減少に加え、ブルーベリーの価格下落等により減少
- ✓ 在庫処理の目途がついたことにより粗利率は改善



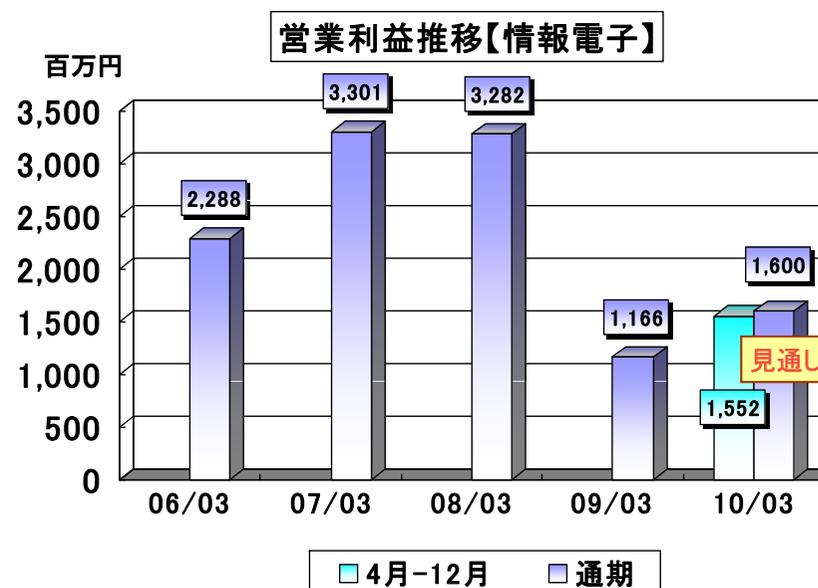
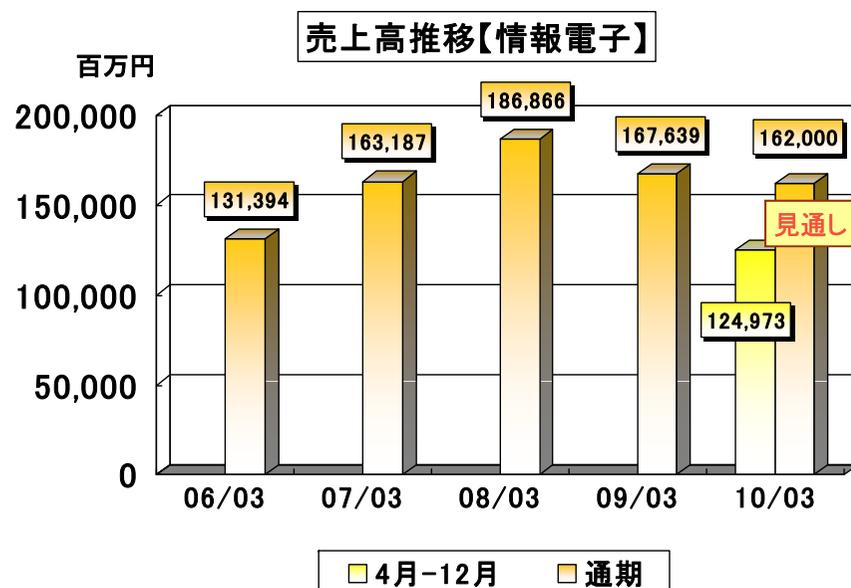
2010年3月期 第3四半期		
	営業利益(百万円)	前年同期比(%)
情 報 電 子	1,552	11.1
化 学 品	326	Δ4.3
合 成 樹 脂	1,032	Δ53.7
住 環 境	9	—
食 品	△69	—
そ の 他	206	Δ12.0
合 計	3,058	Δ27.6

※前年同期 住環境 Δ109 食品 132

2010年3月期 第3四半期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前年同期比 Δ 13.4% 193億円減少

- 各国の景気刺激策などにより、総じて回復基調となったことから、対前年同四半期会計期間比(10-12月)では増加
- 液晶関連では、価格下落等の影響はあったものの、偏光板、偏光板原料等を中心に大きく回復
- インクジェット関連・複写機関連は、拡大傾向にある産業用分野への取組み等により伸長
- LED関連は、テレビ、照明用途などの需要が急速に拡大しており新規開拓に注力
- 半導体関連は景気刺激策などにより回復傾向が強まる



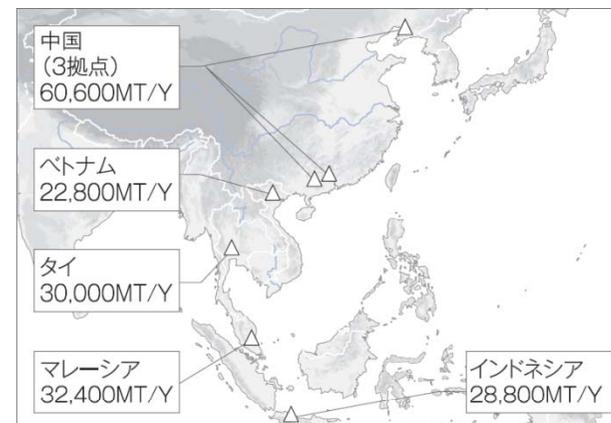
'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 第3四半期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前年同期比 $\Delta 27.4\%$ 376億円減少

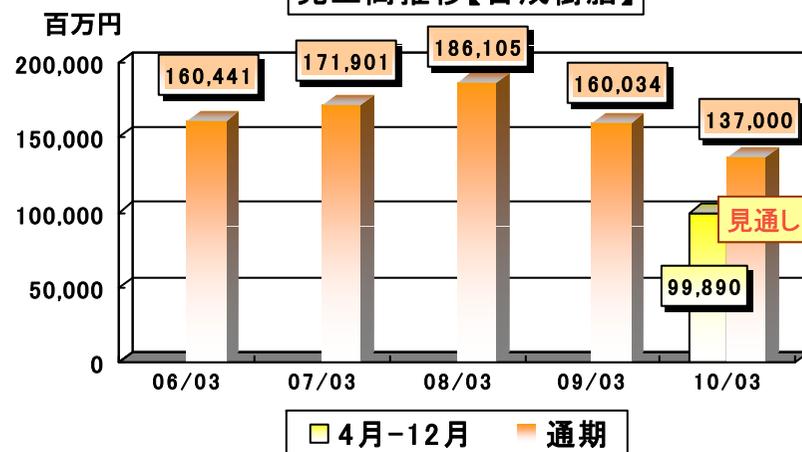
- 海外での需要増に支えられ、概ね回復基調
- 海外では、特にタイ、シンガポール等の東南アジアが増加
- 高機能樹脂は、自動車や電子関連が回復し始め、また輸出が主に中国、東南アジア向けで順調に推移したことにより増加
- 汎用樹脂は、数量ベースでは前年同期水準まで回復したものの、販売価格の低迷により減少
- フィルム・シート関連は、季節要因により堅調に推移したものの、価格下落により減少
- 国内グループ会社の業績は好調に推移

樹脂コンパウンドの年間生産能力

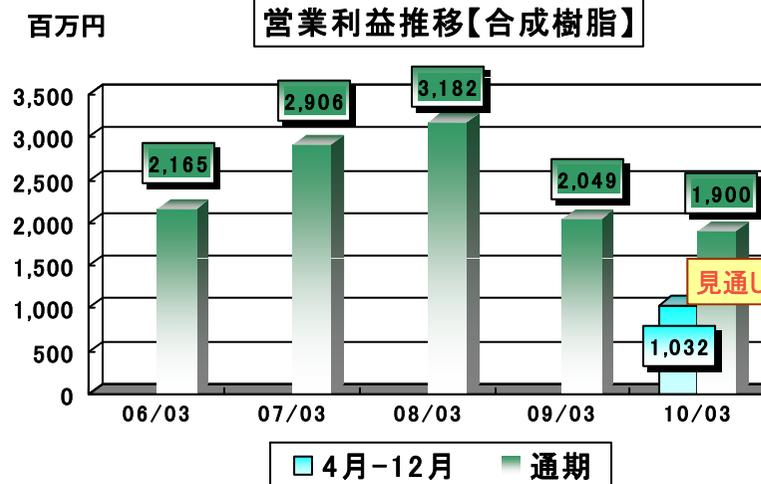


174,600MT/Y 5カ国7ヶ所 (2009年4月1日現在)

売上高推移【合成樹脂】



営業利益推移【合成樹脂】



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 第3四半期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前年同期比 $\Delta 35.5\%$ 197億円減

- ✓ 世界的不況からの回復傾向が強まるものの、依然前年同期を下回る
- ✓ シンガポールでは、数量ベースでは回復したものの、販売価格下落により減少
- ✓ タイでは輸出企業への樹脂販売が回復基調となるものの減少
- ✓ インドネシアでは、商社・製造部門とも内需に支えられ順調に推移

北東アジア ⇒ 対前年同期比 $\Delta 27.0\%$ 184億円減

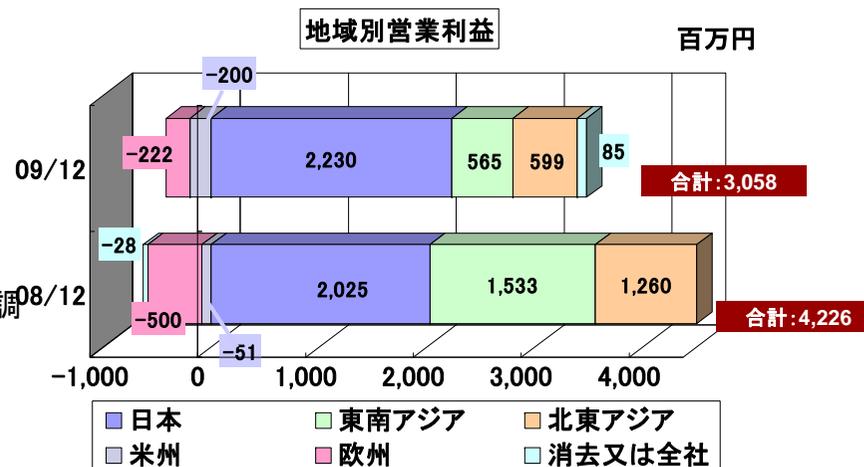
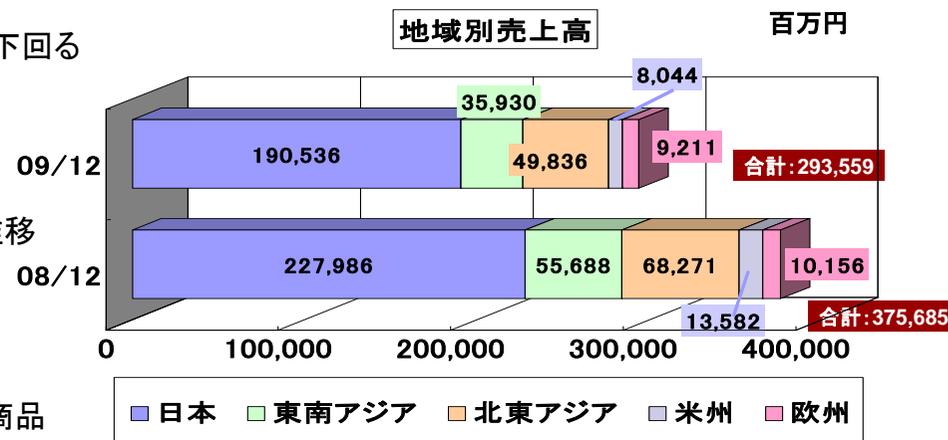
- ✓ 台湾、韓国では中国向け液晶関連部材が順調
- ✓ 香港、華南では、中国政府の内需振興策が寄与し、液晶関連商品を中心に急速に回復する一方、合成樹脂関連は依然厳しい状況
- ✓ 華東では内需関連が好調だったことにより、液晶関連が伸長

米州 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 40.8\%$ 55億円減

- ✓ グループ会社清算に伴うコスト負担が大きく、全体では引き続き厳しい状況
- ✓ マスクブランク等々の半導体関連各種材料は苦戦
- ✓ 食品関連では、ブルーベリーの価格下落に加え、日本向け販売も低調

欧州 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 9.3\%$ 9億円減

- ✓ フランスのファインケミカル関連は総じて低調
- ✓ 太陽電池関連は、販売量は伸びたものの価格競争等の影響により苦戦
- ✓ ポーランドでは、欧州域内の液晶TV市場の回復により液晶関連が好調



2010年3月期 第3四半期 連結子会社概況

- NOBEL ENTERPRISES LIMITEDが清算手続き中により第2四半期末で連結の範囲から除外
- SIKグループを100%子会社化 ⇒ 海外合成樹脂ビジネスの更なる発展を目指す
- 稲畑工貿(大連保税區)有限公司が重要性の増加により連結子会社化

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	13	40	53
持分法適用関連会社	4	6	10
合計	17	46	63

■ 2010年3月期 通期業績予想

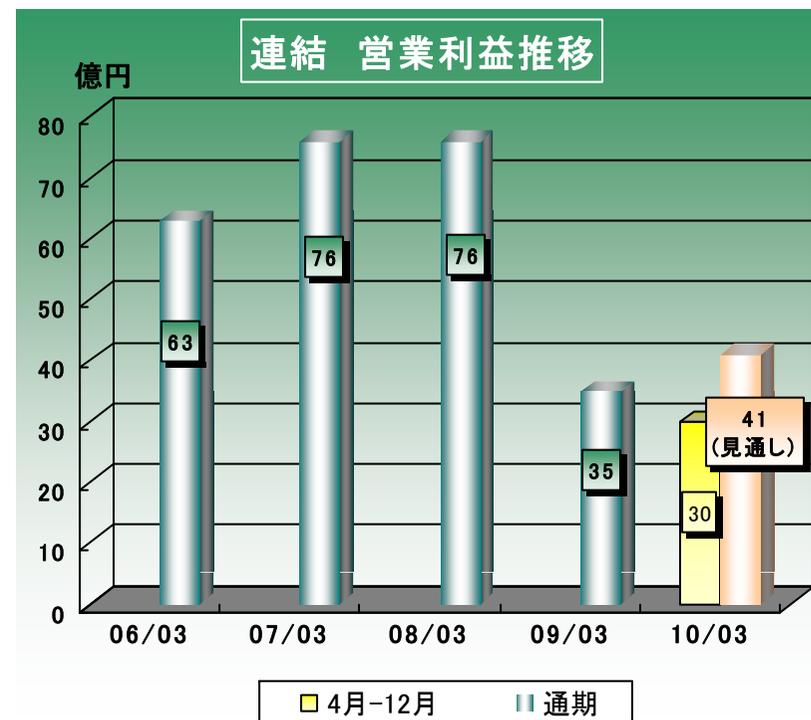
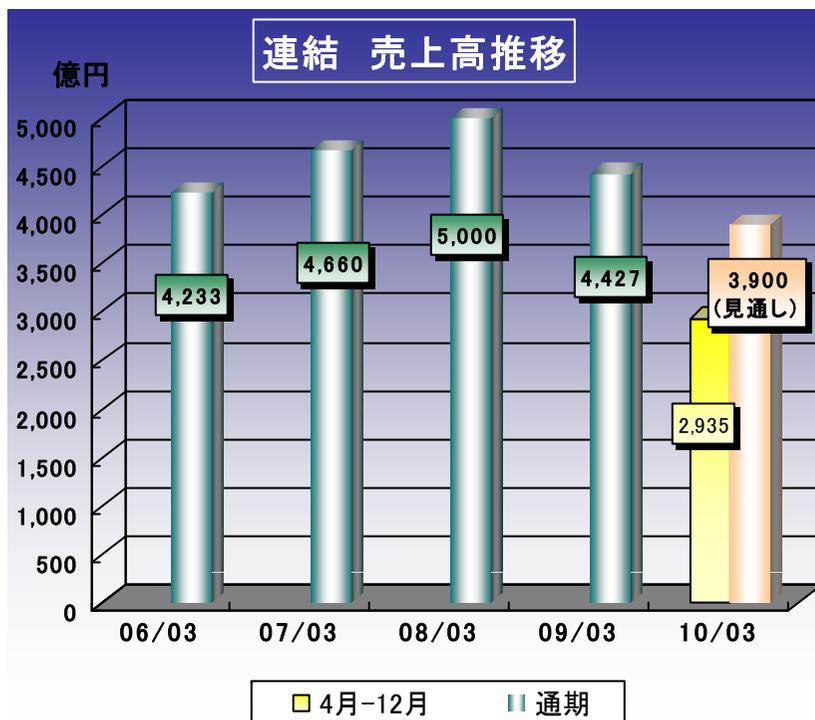
(単位:百万円)

	2010年3月期 第3四半期	達成率(%)	2010年3月期 通期見通し (2月10日公表)	2010年3月期 通期見通し (11月10日公表)	前回通期 見通し比
売上高	293,559	75.3%	390,000	390,000	0
営業利益	3,058	74.6%	4,100	4,100	0
経常利益	3,012	88.6%	3,400	3,400	0
当期純利益	1,144	76.3%	1,500	1,700	△ 200
1株当たり 当期純利益	17.59	—	23.06	26.13	—

'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

■ 売上高と営業利益の推移と見通し(06年3月期～10年3月期)

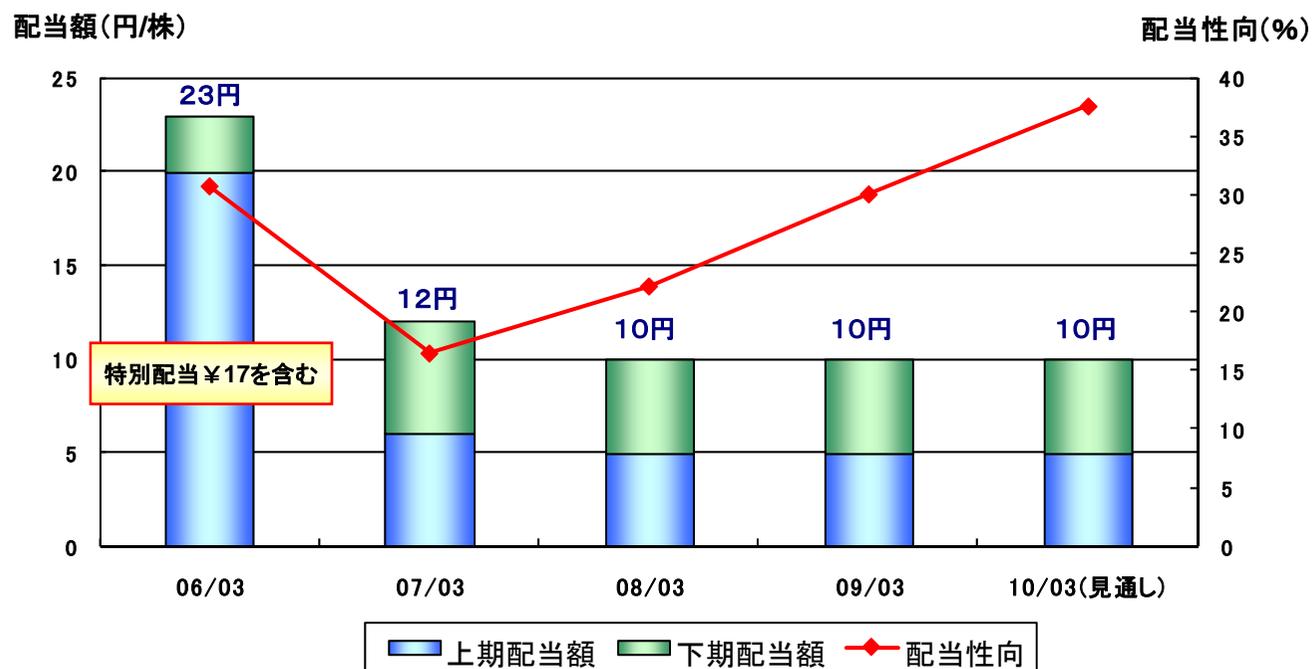
➤ 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

株主への還元

- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の20%~30%程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限年間10円の配当金の維持に努める。



今後の方針

- ▶ シナジー効果の実現を重点に置いた事業の再構築を推進
- ▶ 有望なアライアンスの締結の促進と自社企画プロジェクトの拡充
- ▶ グループ会社を含む全社員で内部統制の推進に取り組むとともに内部統制システムの充実を図る
- ▶ 引き続き国内外の連結経営を強化、収益力の向上、人材の育成に一層注力する
- ▶ 資金の効率化の更なる向上と財務体質の強化